

# H-PAF NEWS

Hokkaido Performing Arts Foundation

## 第4波、第5波のさなか、困難を極めた上半期の演劇財団運営

公益財団法人 北海道演劇財団 理事長・芸術監督 斎藤 歩

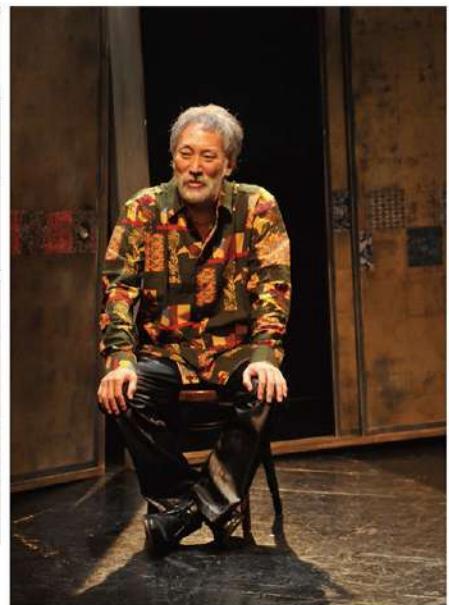
1年前は「来年の夏には…」と甘い期待を抱いていましたが、4月以降、1年前よりひどい状況が続き、第4波、第5波と呼ばれるこれまでにない感染拡大に見舞われ、北海道にも2度の緊急事態宣言が発出されるなど、更に厳しさを増した状況での上半期でした。

上半期は危機回避が可能な作品を用意しようと、6月に予定していた「劇後鼎談」は、出演者数やスタッフ数を極力抑え、感染症対策を徹底しやすい座組で臨みましたが、5月21日には道内の一日の新規陽性者数が721人と過去最高となるなど、安全な稽古場運営と公演が困難であると判断し、公演を8月末に延期する決断をしました。その後、7月2日には道内の一日の新規陽性者数が72人まで減少し、7月1日、2日の二日間、札幌市民交流プラザ・クリエイティブスタジオでの朗読劇「すすきのを爪弾く・今も逢えない～七夕の憂哀歌」を上演し、HTBオンライン劇場での有料配信も行いました。8月には、「札幌演劇シーズン2021-夏」のサテライトプログラムとして劇のたまご「ぐりぐりグリム～ねむり姫」を上演し、札幌市子どもの劇場「やまびこ座」でも上演しました。そして延期した「劇後鼎談」は、第5波と呼ばれる感染拡大の北海道におけるピークが8月18日(595人)にあった中、8月19日～25日にシアターZOOで何とか上演し、無事に終えることができたのです。緊急回避とリカバリーを同時に行う能力を問われた半年でした。

しかし、9月30日から予定していた大型の新作公演、三浦綾子さん原作の「ひとつじが丘」は、当初から目標としていた、これまで劇場に足を運ぶことのなかった皆さんにも観ていただくことや、若手中心の俳優たちと長期間の事



(左上)劇後鼎談ZOOM稽古  
(左下・右)劇後鼎談(撮影:高橋克己)



前ワークショップを行ったうえで創作することなどが困難な状況となり、次年度への延期という苦渋の決断をさせていただきました。

北海道新聞が毎日発表している道内の新規陽性者数のグラフに、公演スケジュールを書き込んだグラフを作り、それを私のデスクの目の前に貼り、毎週更新しながら睨み続けています。「あの時、こんな数だったのに公演を中止してしまったのか」とか「こんな状況で上演していたんだ」と悩み続けた上半期でした。間もなく襲来するであろう第6波に備えつつ、下半期に立て続けに予定しているいくつかの公演事業やワークショップ事業、劇場運営、そして年度末に予定している今年度最大の公演、All Sapporo Professional Actors Selection「暴雪圏」をいかに安全に実施できるかを考え続けています。

こんな状況であるにもかかわらず、協賛社・後援会各社のほぼすべての皆さんが一昨年、そして昨年と変わらずご支援くださっています。特別協賛と

して新たなご支援も頂くなど、北海道の皆さんからの力強いお気持ちに支えていただきながら、何とか各種事業を継続させていただいている。

今年4月には、札幌市内の高校で「ルーキーズキャンプ」と呼んでいる新入生研修のためのコミュニケーションワークショップをコロナ禍にもかかわらず実施、しかも前年度から1校追加して実施させていただきました。コロナ禍が続く中、児童・生徒たちが分断され続けていて、教育現場における先生方や児童・生徒たちが受けている傷はかなり大きいようです。現場からの切実な要望に応える形で、感染症対策を徹底し、重装備で汗だくの演劇人たちを教育現場に派遣し続けています。

この有事における演劇人派遣の取り組みが、必ずや平時にも活ける経験となって、私たちに蓄えられ続けると信じ、今は慎重に肅々と取り組めることの全てを緩めず、徹底しながら次世代の演劇人たちと日々前進し続けています。

## 積み上げてきたもの

苦小牧市妙見寺住職 末澤 隆信

8月22日(日)14時、札幌座第57回公演  
「劇後鼎談」を観た。

客席に着くやいなや、劇団シュリンプスラングの新作公演『未開封のアロワナ』が終わった後の舞台上で、スタッフが作業をしている。散らかった小道具の片付けとか、掃除とか、鼎談(3人による会談)用に椅子を並べたりとか。これって、終演後のアフタートーク前のあるある風景。

なので、観客はこのゆるい空気にすんなり持っていくかれる。「この物語を解読しなければ」、そんな力みから解放される、巧みな導入である。

まず登場するのは、演出家と主演女優、劇中の音楽を作曲し生演奏したギタリスト、司会の女性。こぼれ話に裏話、主演女優の過去や劇団の昔話、テーマはああだこうだ…、アフタートークにありがちな話題で進んでいくから、構えずに観続けられる。

それが、なんかどっか茶化していて面白かった、好きだった。突き放して、距離を置いて、斜に構えて伝えていた。

「演劇を語ることを。

「芸術を語ることを。

話題はそれに終止しない。ゲストであるアゼルバイジャン戯曲『未開封のアロワナ』の翻訳者アフマドフの登場をきっかけに、アフタートークは突拍子もない方向へ、宇宙の彼方までねじ向けられていく。「演劇」をさらに突き放していく方向へ—

—「演劇や芸術を語ることって、「宇宙空間を通じた異星人との意識レベルでの交信を真摯に語ることと、なんか差があるんですか—

そう問うてた。

脱演劇、脱芸術、脱インテリジェンスに迫っちゃってたのが好きでした。

そんな感想を、札幌の演劇制作の一線で活躍している友人女性と話したら、「アイロニーとユーモアが拮抗しながらナンセンスの極致を生んでいた」と上手い分析を言っていて、なるほど!と思わされた。彼女はこうも言っていた。「自らの「芸術」や「インテリジェンス」を追求しないと「脱」にはならないですね」いやはや、それも慧眼です。



札幌座が次に手がけるのは、三浦綾子の純文学「ひつじが丘」と聞いていたが、このコロナ禍、延期となつたそうだ。

この芝居の後に純文学かと、かなり面白がっていたのに残念だ。「ひつじが丘」終演後の本物のアフタートークこそ見てみたかった。

斎藤歩、そして札幌座が「芸術」と「脱芸術」の両極を行き来し、成し遂げた場所にとどまつていなかつたことがわかつて、なんかいいと思つた。きっと、磯貝圭子、西田薰、泉陽二、出演者たちの確かな演技力が、これを成功させていただろ。

ミュージシャン、竹原ピストルが歌う「オールドルーキー」の一節

「積み上げてきたもので勝負しても勝てねえよ  
積み上げてきたものと勝負しなきや勝てねえよ」

そういうことを持ち帰れて、よかったです。

大事なことだと思ってます。

(撮影:高橋克己)



どうしん電子版は  
購読料はそのまままで  
使えます!

**北海道新聞**  
どうしん電子版



さあ、ニュースと外へ  
出かけましょう。

「どうしん電子版」で朝夕刊紙面がそのまま読みます  
北海道新聞を月ごめ購読されている方なら、会員登録するだけで利用できます。夕刊は朝夕刊の月ごめ購読者のみご覧いただけます。



外出中もスマホで  
読める



家族も読める



文字を大きくして  
読める



朝刊は全道の地域面を  
読める

手続きは簡単! 今すぐ登録!  
「どうしん電子版」登録お申し込みはインターネットから  
<https://www.hokkaido-np.co.jp/>

お問い合わせ  
どうしん電子版サポートセンター  
**0120-889-104**  
10:00~17:00 土・日・祝などを除く  
メール dd-support@hokkaido-np.co.jp

## コロナ渦での挑戦 HTB onライン劇場の取り組み

北海道テレビ放送株式会社 イベント事業部 澤田 海

演劇は本来、劇場で周囲の反応も楽しみながら、作品に入り込んで「体験する」ものだと思います。ですが、コロナの影響で劇場に集うことが制限された時、演劇の危機を感じていました。

それでも、演劇は、様々な方法で続いている。コメント機能を使った生配信演劇、稽古～終演後2週間まで感染症対策を徹底、検査を活用し安心・安全に劇場で上演する形など、演劇団体の挑戦は素晴らしいと思います。

今回、北海道演劇財団の作品の配信をさせていただいた、「HTB onライン劇場」を簡単に紹介します。

演劇・コンサート・レジャー等がコロナの影響で困難に直面する現状に、地域メディアとして「北海道のエンタメ文化の応援をしたい」という思いのもと、2020年7月スタート。HTB創世スクエアスタジオでの無観客ライブや演劇などを、配信システムを通じて届けてきました。演劇や怪談、寄席など様々な配信を行い、約3,000名の全国の方に視聴いただきました。グッズ販売やメッセージ、アーカイブ配信など新しい楽しみ方も生まれています。



(写真)「すずきのを爪弾く・今も逢えない～七夕の憂哀歌」(会場／クリエイティブスタジオ) (撮影:高橋克己)

弊社のイベントも全て停止して歯がゆい思いをしている中、このプロジェクトが立ち上がり、手弁当ながら「北海道」にこだわって進めることになりました。道外との往来が制限される中で当然の縛りでしたが、だからこそ、素敵な北海道のアーティストの方々との繋がりが生まれ、一つの財産になっていると思います。そして、私自身が学生演劇をしていたこともあり、今後演劇を取り組みたいと思っていた時に、ご縁をいただき斎藤歩さんとお話をできました。その時には素直に、とても嬉しかったです。

そして、昨年12月24日の「聖夜の憂哀歌」、今年4月の「北緯43°のリア」、そして7月の「今も逢えない～七夕の憂哀歌」と3作品を共に取り組みました。「聖夜の憂哀歌」は、スタジオでの朗読・演奏を生配信。カメラ・照明の切り替えや、特殊効果も技術陣が調整室から一発勝負で創り上げました。まさにそれは「演劇」そのもの。劇場に人はいなくても、聖夜の家の中で離れた人々が作品を観て、想いを共有していただけます。



した。全国的にも新しい作品を、コロナの影響によってとはいえ、北海道から生み出せたことは嬉しく思います。また、この作品にはHTBアナウンサーの福田太郎も出演しました。

「北緯43°のリア」「七夕の憂哀歌」は、厳格な感染症対策で上演する劇場で、様々な角度から収録・編集を行い、アーカイブ配信でお客様にお届けしました。3面舞台の「北緯43°のリア」は、リアル観劇では観られなかった角度からじっくり観られるところも好評いただきました。また、札幌を代表する役者・スタッフが創ったということで、3作品とも、札幌に来られない全国の方にご覧いただき、感謝の声もSNSなどでいただきました。

個人的には、今後配信が主になることは望んでいません。「生」の芸術が渴望され、多くのお客様で溢れかえることこそが未来であってほしいです。ただ、「聖夜の憂哀歌」のように配信「ならでは」の作品としてより楽しめるものが生まれたり、道内で上演された作品を全国にお届けできるツールとして活用したりするのであれば、継続の意義があると考えています。

最後に、一緒に挑戦させていただいた斎藤歩さん、北海道演劇財団の皆さん、作品に携わっていた皆さんに感謝を申し上げます。今後も一緒にHTB onライン劇場でチャレンジに取り組めれば幸いです。札幌の様々な劇団の作品の上演や、トークがメインのやわらかい企画など、できることは様々あると思っています。

**HTB  
online**  
オンライン  
劇場

北海道のエンタメ文化を応援！



おうちの中でもイベントや  
ライブの感動を味わうことができます。  
HTB創世スクエアスタジオから、  
ローカル局らしいイベントを配信します。

ユメル、チカラ  
HTB



HTBオンライン劇場  
@htb\_on\_theater  
#HTBオンライン劇場

## 北星女子高校のルーキーズキャンプ

札幌座／北海道演劇財団 理事 磯貝 圭子

4月12日と13日の2日間、北星女子高校のルーキーズキャンプでワークショップを行いました。昨年はコロナの影響で中止となりましたが、今年は感染状況が落ち着いていたこともあり、事前に先生方と感染症対策やプログラムの進め方の打ち合わせをして実施しました。例年は1泊2日で行われるのですが、今年は宿泊はせず、1日目が市内ホテル、2日目は学校での開催となりました。

このルーキーズキャンプは北星女子中学から進学してきた生徒と、高校から新たに入学してきた生徒が交流することを目的の一つとしています。学年全体を6グループに分けてシアターゲームでウォーミングアップした

あと、さらに少人数のチームに分かれてグリム童話をもとにした3分程の劇を創作してもらいました。最初は緊張していた生徒たちもゲームが始まるとマスク越しに笑顔が見られ、小人数のチームに分かれての創作作業では初めて顔を合わせる同級生とのやりとりに多少のぎこちなさもありましたが、活発にアイディアを出しあって劇づくりに挑戦してくれました。最後に



各グループ選抜の作品を広い講堂で発表しましたが、客席の生徒から笑いや大きな拍手が起きていたのが印象的でした。

その後、緊急事態宣言の発出により始まつばかりの高校生活はしばらくオンラインになったようです。コロナの影響で学校行事も少なくなり、クラスづくりが難しいという話も先生方から伺いました。楽しそうに取り組む生徒達の様子を見て、コロナ禍でコミュニケーションが取りにくくなっている今こそ、学校現場で演劇ワークショップが果たす役割が大きいのだと改めて感じました。生徒たちが1日も早くマスクを外して仲間の顔を見ながら笑い合える日が来るのを願うばかりです。

## 厚別高校1年生のコミュニケーションワークショップ

劇団清水企画／北海道演劇財団 理事 清水 友陽

新年度4月、厚別高校1年生を対象にしたコミュニケーションワークショップを行きました。厚別高校は昨年度から文化庁の「文化芸術による子供育成総合事業」に採択され、2年生に向けてのワークショップを行っているのですが、教員の関心も高く、今年度も継続して指導に入ることが決まりました。今回は、それとは別に学校から依頼を受け、入学したばかりの1年生のクラス作り、仲間作りが大きな課題のプログラムでした。本来ならば、夕張での宿泊研修が予定されており、その中で実施するはずだったのですがコロナの影響で中止となり、学内で2日間、開催することになりました。

生徒たちは中学3年生の1年間、ほぼ

全ての学校行事が中止となったそうで、それに加えて休校、分散登校、給食時間も黙食が行われ、それがもう当たり前のように感じていると話してくれました。感染症対策をしながら、シアターゲームからグループに分かれての創作活動を行いました。どのように進めれば良いか戸惑いながらの導入でしたが、始まってみると、みんな本当に楽しそうで、久しぶりに声を出して笑ったと、生徒や教員の感想を聞いて一安心しました。「こうやって友だちを作るんだった。その感覚を思い出した」と言った生徒がいて、この事業をコロナ禍で行うことの意味を改めて感じた2日間でした。

最後の時間には、学年全員で体育館に集まり、ソーシャル・ディスタンスを保ちつつ発表会を行いました。舞台美術も照明も音楽も、何もない空間でしたが、2日間で完成させた仲間たちの作品を真剣に見つめ、拍手を送り、感想を伝え合う姿には充実感があり、高校生活のスタートに少しでも役立つことが出来ていたらいいなと、我々も大きな拍手を送ったのでした。



小さなことから……。

**岩本・佐藤法律事務所**

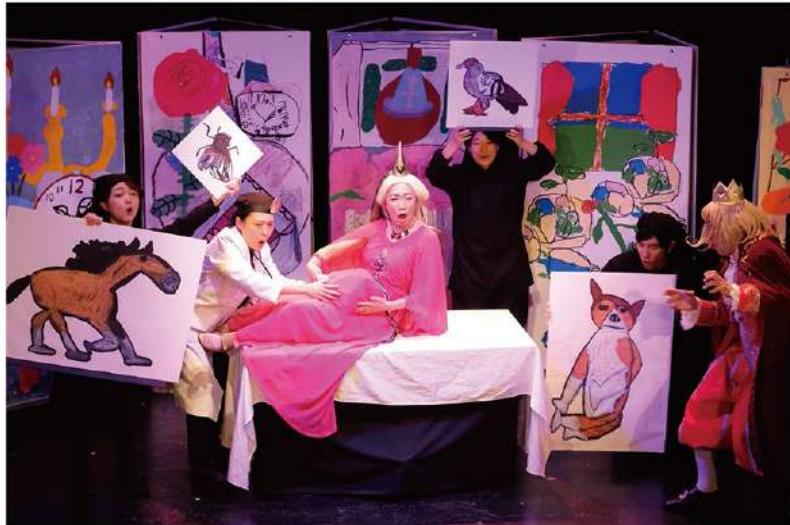
弁護士 岩本 勝彦  
弁護士 上木 健司

弁護士 佐藤 昭彦  
弁護士 甲斐 寛之

〒060-0042 札幌市中央区大通西 9 丁目キタコーセンタービルディング6階  
電話：011-281-3001 FAX：011-281-4139

## 劇のたまご「ぐりぐりグリム～ねむり姫」やまびこ座初公演

札幌市こどもの劇場やまびこ座館長 矢吹 英孝



(撮影:高橋克己)

札幌には、人形劇や児童劇といった子ども文化を創造発信する「こぐま座」「やまびこ座」という2つの子どものための専門劇場が存在します。こぐま座は、「シアターZOO」にも近く、中島公園の中に全国初の公立専門人形劇場として1976年に建設されました。その後、今回の「ねむり姫」の会場ともなった子ども文化の総合的な施設として1988年に東区元町にやまびこ座が建設されました。全国でも稀な子どものための専門劇場が札幌に2つもあるということは非常に貴重であり、札幌の子どもや子育てに対する意識の高さを伺い知ることができます。

さて、昨年から続くこのコロナ禍において、いかに芸術文化創造を止めず、とりわけ生の舞台をどう届けていくか、まして子どもたちへの心のケアがこの2年間、私たちにとって重要なテーマがありました。そんな中で今年の夏休み、札幌には「まん延防止等重点措置」が再び適用され、公共施設や飲食店、各種イベント等が自粛となってしまいました。しかしながら、子どもたちにとっての夏休みの体験は二度とない大切な時間です。その貴重な時間を奪わないために、こぐま座、やまびこ座は夜間自粛はあったものの公演や事業継続の

許可をいただくことができました。この決定を聞いた時には本当に嬉しく、これまで我々が行ってきた感染症対策や事業の進め方に一定の評価をいただいた結果だと受け止めています。

そのような状況下、今回、やまびこ座夏休み特別公演として、8月12日、13日の2日間、シアターZOO企画「ぐりぐりグリム～ねむり姫」を上演することができました。コロナ禍において50%の入場制限を行なっているにもかかわらず104名のお客様にお越しいただくことができました。ちょっとおかしなヘンテコリンで心あたたまるお芝居というのは、今回の「ねむり姫」でも健在でした。私自身、これまで何作か「劇たま」シリーズを観ておりますが、その度に札幌を代表する役者の皆さんが子どもたちと真剣に向き合って、それでいて遊んでいるような感覚で創り上げる作品はとても魅力的でした。やまびこ座でもいつか上演してほしいと願っていたことが、今回、初企画として実現できたことは本当に嬉しく思っています。「ねむり姫」は役者の皆さんのコミカルな演技に加え、人形劇的な舞台装置の使い方、演出力が見事でした。さらにペングアートの子どもたちによる絵がとても可愛く舞台を彩り、自由な発想と生きる力を感

じ取ることができたことはとても印象的でした。俳優を含めた舞台の雰囲気と子どもたちの笑い声、そしてやまびこ座という劇場が重なり合い、ひとつの温かな舞台を創りあげたと言えるでしょう。

北海道演劇財団とは、これまで2017年に札幌国際芸術祭で「中島公園百物語」という、中島公園の歴史物語をやまびこ座、こぐま座の子どもたちと一緒に創りあげた経緯があります。その他、様々な場面で一緒にすることが増えてきました。そういう意味では、今回の公演はある意味必然であったのかもしれません。現在、やまびこ座では児童劇というジャンルが少なくなってきたことを課題としています。これまで各劇団が子ども向けプログラムを大人向け作品と同じように制作、上演してきました。少なくなってきたのは様々な要因が挙げられます。劇団の運営状況もその一つです。コロナ禍によってその状況はますます悪化してきました。しかしながら、今回のように各団体と連携することで相互作用を生み出し、新たな創造につながっていくことが、将来における子ども文化発展の在り方のひとつであると確信した公演でもありました。

## 事業短信

2021年4月1日～2021年9月30日

### 演劇の企画・製作活動

#### 《演劇公演》

##### ●朗読劇シリーズ

すすきのを爪弾く「今も逢えない～七夕の憂哀歌(ブルース)」  
(作・演出:斎藤歩 音楽:山木将平)  
7月1日(木)～2日(金)(4回公演)  
[札幌市民交流プラザ・クリエイティブスタジオ]  
※HTB online 劇場で7月7日～31日まで有料配信

##### ●札幌座第57回公演「劇後鼎談(アフタートーク)」

(作・演出:斎藤歩)  
8月19日(木)～25日(水)(11回公演)  
[シアターZOO]  
※2021年6月17日～23日から延期をして実施

##### ●札幌座第58回公演「ひつじが丘」

(原作:三浦綾子 脚本・演出:斎藤歩)  
9月30日(木)～10月7日(木)(11回公演)  
[シアターZOO]  
※新型コロナウィルス感染症の拡大による影響で中止

#### 《ワークショップ》

##### ●北星女子高等学校ルーキーズキャンプ

4月12日(月)～13日(火)  
[北星学園女子中学高等学校]  
講師:清水友陽、納谷真大、前田透、常本亜実、竹原圭一ほか

##### ●厚別高校ルーキーズキャンプ

4月14日(水)～15日(木)  
[北海道札幌厚別高等学校]  
講師:清水友陽、磯貝圭子、西田薰、熊木志保ほか

##### ●文化芸術による子供育成総合事業「芸術家の派遣事業」(文化庁)

9月8日(水)～16日(木)(3回)

[洞爺湖町立洞爺中学校]

講師:磯貝圭子、熊木志保、竹原圭一

※新型コロナウィルス感染症の拡大による影響で中止

9月21日(火)～22日(水)(2回)

[北海道札幌厚別高等学校]

講師:清水友陽、磯貝圭子、西田薰、前田透ほか

### 劇場運営活動

#### 《シアターZOO企画・提携公演》

##### ●札幌演劇シーズン2021-夏サテライトプログラム

劇団 風蝕異人街「ザ・ダイバー」(札幌)(提携)  
(作:野田秀樹 演出:こしばきこう)  
7月9日(金)～11日(日)(4回公演)

##### ●シアターZOO緊急企画公演

坂手洋二+燐光群「悪魔をやっつけろ～COVIDモノローグ」(東京)(企画)  
(作:デヴィッド・ヘア 演出:坂手洋二)  
7月28日(水)(1回公演)

##### ●劇のたまご「ぐりぐりグリム～ねむり姫」(札幌)(企画)

(原作:グリム童話 脚本・演出:清水友陽 舞台美術:ペングアート)  
8月6日(金)～9日(月・祝)(6回公演)

##### ●劇のたまご「ぐりぐりグリム～ねむり姫」やまびこ座公演(札幌)

(原作:グリム童話 脚本・演出:清水友陽  
舞台美術:ペングアート)  
8月12日(木)～13日(金)(2回公演)

#### 《シアターZOO一般貸出》

16団体 52日間

## 『演劇支援自動販売機』にご協力を!

2011年から北海道キリンビバレッジ株式会社様と連携し、「演劇支援自動販売機」による演劇支援を行っています。自動販売機を気軽に利用して頂くことで、北海道・札幌の演劇を応援! 売り上げの一部が当財團の演劇振興事業推進に使われています。現在、シアターZOO入口ほか、市内7か所に設置されています。

##### 《設置協力社一覧》

- ・愛犬美容看護専門学校
- ・アクトコール株式会社
- ・キャトレール中島公園
- ・北海道文化放送株式会社
- ・株式会社ノヴェロ
- ・社団法人孝仁会 心臓血管センター 北海道大野病院
- ・北海道テレビ放送株式会社 (敬称略)



## もしものために積み立てよう

結婚式や葬儀など、人生の節目に訪れる大切なセレモニーをあいプランの互助会システムがしっかりとサポート。

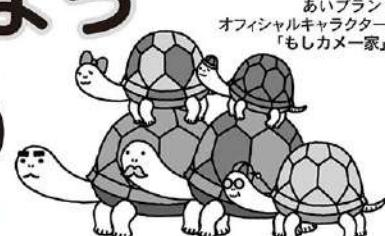
あいプランシステムに関するお問い合わせ・ご相談窓口

月々のわずかな積み立てで大きな安心を。

(月々 2,000円×90回 | 総額 180,000円)

※施行時に別途消費税相当額をお預かりいたします。

0120-335-924



# 公益財団法人北海道演劇財団に ご支援をお願いします。

北海道演劇財団は、日本でも前例のない演劇に特化した財団法人として、演劇により北海道の文化芸術を活発にし、道内各地で上質な舞台芸術に触れる機会を飛躍的に増やしてまいりました。

今後もこれまでの活動に加え、未来を担う子供たちに、表現・創造・出会いの豊かさを伝える取り組みを積極的に展開し、社会から必要とされる演劇の役割とその魅力を増す努力を続けてまいりますが、演劇活動を取り巻く状況は必ずしもゆるやかではありません。なにとぞ皆様からのご支援をお願い申し上げます。



## ご寄付によるご支援

ご寄付は、税制上の  
優遇措置が受けられます。

法人および個人のご寄付の場合、優遇措置を受けるには確定申告の届け出と「寄付金受領書」(本財団発行)の添付が必要です。

ご寄付に関する内容および寄付金申請書のダウンロードは、ホームページをご覧いただくか、あるいは本財団までお問い合わせください。

<http://www.h-paf.ne.jp/support/>

QRコードからは  
コチラ



## オフィシャルパートナー

本財団は、ご寄付をいただくための  
「オフィシャルパートナーシステム」を設けています。

### 特別支援団体 年額／1口 50万円以上

○広報紙「H-PAF NEWS」に団体の広告を掲載させていただきます。  
○シアターZOOロビー、広報紙、シアターZOO「STAGE NEWS」、ホームページ、札幌座公演チラシ・パンフレットで団体名をご紹介いたします。  
○札幌座札幌公演にご招待いたします。

### 協賛団体 年額／1口 5万円以上

○広報紙「H-PAF NEWS」、ホームページで団体名をご紹介いたします。  
○札幌座札幌公演にご招待いたします。

### 後援会会員 年額／1口 3万円以上

○広報紙「H-PAF NEWS」、ホームページで会員名をご紹介いたします。  
○本財団主催公演案内をご送付いたします。

ご寄付および「オフィシャルパートナーシステム」のお問い合わせ、お申し込みは下記までご連絡ください。

公益財団法人北海道演劇財団 TEL.011-520-0710 E-MAIL office@h-paf.ne.jp

〒064-0811 札幌市中央区南11条西1丁目ファミール中島公園1F FAX.011-520-0712

**NPO 法人 札幌座ぐらぶ 会員募集中！**

札幌座ぐらぶは、観劇し続けることで楽しみながら演劇を応援する団体です。  
札幌座の他、シアターZOOのラインナップなど、厳選した作品をお楽しみ頂けるほか、サロンの会など俳優・演出家たちとの交流イベントも盛りだくさんです。

年会費／一般：14,000円／学生：10,000円／高校生以下：7,000円  
お申込み・お問い合わせ TEL:011-522-6222 Mail:club@h-paf.ne.jp

## 特別支援団体

岩本・佐藤法律事務所  
ホクレン農業協同組合連合会

(株)北洋銀行  
(株)北海道新聞社

北海道テレビ放送(株)  
(株)あいプラン

## 協賛団体

岩田地崎建設(株)  
柿崎歯科  
(株)エヌケイウォッシュ  
(株)クリエイティブオフィスキュー  
札樽観光(株)

山藤三陽印刷(株)  
酒林坊  
創価学会  
(株)創文  
(株)ダブルス

フルテック(株)  
(株)ほくていホールディングス  
北海道キリンビバレッジ(株)  
(株)トップシーン札幌  
中西印刷(株)

## 後援会会員

(株)アイフードコーポレーションTAMIS  
秋山不動産(有)  
アクトコール(株)  
HTB映像(株)  
(株)HTBプロモーション  
NPO法人音更町文化事業協会  
(特非)札幌座くらぶ  
札幌テレビ放送(株)

(株)サン設計事務所  
スタジオコパン  
(株)ステージアンサンブル  
セイコーマートながい  
(株)テレビ北海道  
(株)東翔  
(株)ネオインターナショナル(Smooch)  
(株)ノックアウト

(株)富士メガネ  
北海道ガス(株)  
北海道文化放送(株)  
北海道放送(株)



つくる人を幸せに、食べる人を笑顔に  
**ホクレン** 美顔の種が、芽を息吹く。

**HOKUREN Seeds PROJECT**

**Support** 支援 **Education** 教育 **Ecology** 環境 **Development** 推進 **Social subjects** 社会的課題

【Seeds】は、「支援」「選手」「運営」「開催」「社会貢献」の5つの柱で構成される「ホクレン女子陸上競技部」を運営するNPO法人の愛称です。NPO法人の愛称である「Seeds」であってほしいという願いを込めています。

**ホクレン女子陸上競技部** 選手が全道各地の小学校を年5~7回訪問し、走る楽しさを伝えています。

北の大地に歴史を刻んで。世界へ、明日へ、ホクレン女子陸上競技部。

さまざまなジャンルの大会やチームに協賛

■ ホクレン・ディスタンスチャレンジ  
夏の全国各地区を旅めし、国内の有力選手が熱い競いを繰り広げるトラック中距離競技大会に協賛しています。

■ 少年野球大会  
全道各地から赤ちび抜いでくる北海道少年軟式少年選手権大会をサポートしています。

■ 少年剣道大会  
子どもたちの心身の健やかな成長を願い、ホクレン旗を提供するなど大会に協力しています。

■ ホクレンファームズ北海道農耕文化プロジェクト  
かき氷やアイスバー、ドリンク等の販売ブースを北海道農業を応援するプロジェクトに取り組んでいます。

ホクレンは「HOKUREN Seeds PROJECT」として社会貢献活動に取り組んでいます。

いつでも、どこでも、あなたのそばに。

**北洋銀行**  
www.hokuyobank.co.jp

